

東日本大震災

作成者 F.K2

地震当日2011.3.11の私の体験

地震後、3ヶ月間の私の動き

今私にできること

1. [地震当日 2011.3.11の私の体験](#)

地震当日、私は学校にいた。休み時間が終わり、皆が着席した頃、地震が起こった。

体験したこともない揺れの大きさと長さに、教室中が騒がしくなった。中には恐怖と不安で泣き出す生徒もいた。また、電気も全て消えた。あいにく、担任の先生は出張で学校に不在だった。そんな中、ある生徒が皆を落ち着かせようと慎重に指示してくれた。その行動により、皆も落ち着きを取り戻してきた。やっと揺れも落ち着きだしたところ、校内放送で体育館への避難を指示された。

その後、家に帰ったが停電のため、キャンプ用品を用意し、なんとか生活することができた。今、日本中がどうなっているかわからず不安でいっぱいだった。カーナビでニュースを見たところ、地震による被害よりも、津波による被害の大きさに驚いた。どのチャンネルもすべて地震のことで、見ているのも辛くなるほど悲惨であった。

そんな時、家族が一番の支えになった。周りに家族がいて本当によかったと思う。

2. 地震後3ヶ月間の私の動き

私は、何度も起こる余震に不安を抱きながら、3ヶ月間過ごしていた。

日が経つにつれ、被災地の様子が鮮明に伝わってきていた。

また、復興してきている町も増えていった。

しかし、いつ大きな地震が来るかわからない私は、万が一に備えて、防災グッズを用意している。街中では、ボランティアもあり、被災地に行って復興作業を手伝うことはできなかったが、募金などにできるだけ協力した。

3. 今私にできること

今私にできることは少ないかもしれない。だが小さなことでも積み重ねていくことによって大きなことに繋がると思う。

募金や、節電、節水をつねに気にしながら生活することで被災地の人を支えることができるのなら、私は続けていきたいと思う。

要約文

I was in the school on that day of the earthquake. The earthquake happened when resting time ended.

It was a big earthquake experienced for the first time. The inside of classroom became noisy. Electricity cannot be used.

Afterwards, I could return to our home. It was uneasy. However, the family supported it. The family's existence was reassuring.

I had uneasiness in the aftershock for a long time. The appearance of the stricken area has been clearly transmitted every day. I prepared the disaster prevention goods. I cooperated to the fund-raising campaign for the stricken area.

It might be few that I can do now. However, I think that piling it by a small thing is important. I want to support the stricken area.

東日本大震災についてはこちら

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%A4%A7%E9%9C%87%E7%81%BD>